

▼ By Jan van Hezewijk ▼

この話は私の最初の「真空管」体験記です。先日私はインターネットサーフィンしていて、小さな真空管アンプが気になってしまった。私のTannoy Red monitorをドライブする1500ワット程度のアンプを物色していた。店員はそれらは真空管アンプでドライブしないと言う。それは絶対にいやだ、何故なら私は一般的にジャズ/クラシックアンプのようではなく、そしてオートバイアンプといふ別物で、Break Beats/Trip Hop/Trance Houseが私の大好物だからだ。

まさしく好奇心から、私はEindhovenのショッパHifwinkleに電話した。Mr. Marcelはそれを聞き、彼が過去にTannoy Little Gold Monitors、D5000、そして音のEatonを持っていたことが有り、その経験談で私を納得させショッパに来るように私に言った。そこで私はODを随し持って、新しい音の世界に入ってみることにした。

男性がスピーカーを持ってきてくれて、私をリスニングポジションに座らせた。真空管式Tieeb4000 ODプレイヤーが有り、私の持ってきたSuper Redが接続された。

それは確かに接続されたのだ！ 本当にこれが私が長年使用してきたスピーカーなのか！ いや、そうではない。彼は何か代わりのスピーカーをつないで、私を騙そうとしているに違いない、そう思った。しかし鳴っているのはわたなの一つ。私のRed monitor。

私が聞きたかった最初のデイスクリ、いくつかの旧ボーズ、Massive Attack、Blue Lines、このデイスクリは真音のかかるBASSがある。私のNADとSuper Redのコンポーネントの組み合わせからは、録音されているBASSを今まででは決して書えなかった。ところがこのコンポーネントの組み合わせは、深い重のようなBASSと私だけがドライブコンパートで知っている信じられないようなリズミカルなBASSの感じを出した！

Marcelが言うには、Redは高性能のスピーカーとのこと、だからアンプは軽々とドライブする。大音量レベルで信じられないような本物のようなダイミクスがあり、天井からはチリが降りまくってくる！ なんと素晴らしい！

今、あるS. B. プレートを買った。これは私が所有の30センチサイズの版のコレクションをいくつかのODRに記録し焼き直したものだ。何と言うことだ！ どうして、一秒間に多くの速いビートを持つそのような音のテクニクを、非常な説得力をもって再現できるのか。座っていることが出来ない、足は絶えずタツタを打っている。

「これは音楽であるか？」と私はMarcelに尋ねた。彼は私にもっと再現しにくいものを要求してきた。例はそのようなものが好きらしい。そして私にOrb DJ Marcelleを聴かせようとした。例はそのライブを知っている。例は私に、音の空間に注意してみてください、と言った。何と言う驚嘆の経験をしたことか。私は実際に、私の周囲から私を包む、ホログラフィックな音の映像、現物と同様の音響空間を聴いた。Marcelは説明した。「これがステリオと云うものです！」

オオ、ワオ。私はこれが欲しい。私はプロローグ・ワンを買ひ、このレビューを書いて100ユーロキヤッシュバックを買ひ、Tieeb4000とインターコネクターを買った。私は今やオートバイアンプであるか？ その通り。あなたが何と言おうと、私は今や、非常に幸福な男である。

私はこのワイルズに悩まされている。私をベッドに寝かせようとしていないプロローグの野郎を訴えてやろうと思っている。

皆さん、こんな楽しみもありますよ。古い180年代のODが驚くほどに素晴らしいPublic Enemy、Big Daddy Kane、NW.AのCDなどを探し出した。それらをドライブせずにはおられない。

サンキュー、プロローグは私の経験を引き上げてくれることに、色々のことをなしてくれた。